

頭陀袋

66

平成二十九年十二月

発行 中山かんのん

恩林寺

中山中学下、電話三四一―一二四五



雲 無心

都市に住みビジネスに走り回る人々はつまらないことでいがみ合い怒鳴り合ったりしている。空を仰ぐことを忘れているからだ。

空はいい。雲が形を一瞬一瞬変えながら流れていく。こだわりなど、どこにもない。(雲

は無心にして岫しやうを出で、鳥は飛ぶに倦うんで

還かえるを知る。(帰去来の言葉)(陶淵明は太

空を仰いで天地自然のこだわりのない無心の感動を覚えている。詩人の魂に都市の生活に疲れたじぶんの心を比べると涙が出るほど今の自分のみじめさがわかる。

どうしてこんなに心が乾かわいてしまったのだろうか。そんなとき一日、空を仰いでみる。乾いた心を溶かしてくれるのがよくわかる。

ご報告

十一月十一日ご本尊聖観世音菩薩慶賛法要、宗祖、隠元禪師追悼並びに檀信徒各家先祖供養が務まりました。

当日は黄檗宗管長、近藤博道猥下、名古屋真聖寺、木村信安和尚様。岐阜市真聖寺、村瀬正光和尚様。各務ヶ原、清見寺中野妙照禪尼様。宗猷寺、今城東徹和尚様、恩林寺住職、徒弟、鳳雅禪士が加担くださいました。恩林寺で管長猥下をお迎えするというのは実に八十年ぶりでありまして大変うれしいことでした。引きつずき猥下の御親教があり、次に、犬山市、先聖寺住職、芹沢保道老師の、黄檗文化と私たちの生活について、と、題し、隠元禪師の生い立ち、禪師がもたらした煎茶、食材、思想などの興味深いお話があり、皆さんで食事をしたのち解散いたしました。管長猥下は翌日にも御親教を控えておられご多忙の中の御巡錫でした。

